

排尿予測デバイス「DFree」で自立排泄を実現！

排尿予測デバイス「DFree」

排尿予測デバイス「DFree（ディー・フリー）」は、下腹部に装着する超音波のセンサーにより、膀胱の尿のたまり具合を計測し、排尿のタイミングをお知らせする排泄支援の介護ロボットです（販売元：トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社）。

尿のたまり具合をリアルタイムで10段階で表示し、予め設定しておいた数値を超えると、トイレ誘導のタイミングをスマートデバイスへ通知します。また、排尿後のおむつ・パッド交換のタイミングをお知らせする通知とベッド上での起き上がりを検知し、夜間の転倒防止をサポートする通知機能も搭載されています。

2017年4月に販売開始以降、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設などでの導入が進み、2018年4月の排泄支援加算の新設も追い風となり、延べ約200施設で自立排泄を支援するために利用されています。2021年の介護報酬改定も見据えて、排泄支援を強化する介護施設からの引き合いが増加しており、またコロナ対策への活用のため、前年対比で2倍以上の引き合いがあるそうです。

「DFree」の活用事例

介護施設において、DFreeは以下のケースで活用されており、利用者の自立排泄を通じたQOL向上、職員の排泄介助業務の負担軽減に寄与しています。

①トイレ誘導のタイミングが合わない

トイレにお連れしてもタイミングが合わず排尿がみられない方に、通知を利用しタイミングを掴んだ結果、トイレでの排尿を増やすことができた

②おむつ交換のタイミングが合わない

タイミングがつかめず、漏れてしまうことが多い方への頻回な交換を、通知を利用したおむつ交換に見直した結果、業務負担を減らすことができた

③トイレを理由とした転倒がある

夜間に尿意を催し起き出してしまう前に、尿量が増えてきたタイミングでお声がけしてトイレ誘導を行うことで、夜間の転倒を大きく減らすことができた

④頻回にトイレの訴えがある

本人の尿のたまり具合を見ながらトイレ誘導のタイミングを判断し、コミュニケーションを取りながら行うことで頻回な訴えがなくなった。

⑤アセスメントにより排尿傾向を知りたい

新規入居者や排泄ケアに課題のある入居者に対してDFreeを使用し、本人の排尿傾向を分析した結果、自立排泄に向けた最適な排泄ケアプランを策定することができた

主な導入効果

トイレ排尿率 **23.7% 増加**
 失禁率 **46.8% 減少**
 排泄関連業務 **21.5% 減少**

（注）数値はトリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社調べ。効果は、個別のICT導入状況や排泄介助のオペレーションによって異なる

新機能「排泄ケア記録サービス」

DFreeに加えて、排泄ケア記録をスマートデバイスやPCで簡単に記録できる排泄ケア記録サービスも無料で提供しています。既存の紙への記入や介護記録ソフトへの入力と比べ、記録しやすいデザインで、また記録結果を自動で集計・分析できる機能が搭載しており、職員の間接業務の負担軽減をサポートします。

●DFree本体：コンパクトで使いやすいデザイン ●アプリ画面：数値とグラフが見やすいデザイン ●排泄ケア記録：簡単な操作で記録が可能



光洋マイスター認定4号・5号取得2施設のご紹介

第4号 社会福祉法人 博仁会
介護老人福祉施設 リハモール福岡様

第4号は以前快護通信35号でご紹介しましたリハモール福岡様で今回5名の方がマイスター認定となりました。第5号は快護通信第49号でご紹介しました緑寿園様で3名の方がマイスター認定となりました。どちらの施設様も3月に認定が決定していましたが、コロナの影響にて認定式が8か月延期しておりました。

第5号 社会福祉法人 滝川市社会福祉事業団
滝川市 特別養護老人ホーム 緑寿園様

そしてリハモール福岡様では10月28日に、緑寿園様では11月4日に無事認定式を実施することが出来ました。今回認定したマイスターメンバーは、写真上：リハモール福岡様、左側より中川様・矢野様・佐藤様・山路様・佐々木様。写真下：緑寿園様、左側より菊池様・板垣様・石本様です。本当におめでとうございます！！

